

腰痛症とメタボリックシンドロームおよびその構成要素の集積との関連
(ZRF study 第15報)

吉本 隆彦¹、落合 裕隆¹、白澤 貴子¹、長濱 さつ絵^{2,3}、
小林 真理子²、箕浦 明¹、星野 祐美¹、小風 暁¹

¹ 昭和大学医学部衛生学公衆衛生学講座

² 一般財団法人全日本労働福祉協会

³ 東邦大学医学部社会医学講座衛生学分野

【背景】生活習慣・肥満と腰痛症との関連は多くの研究で示されているが、メタボリックシンドローム (MetS) と腰痛症との関連を調査した研究は乏しい。

【目的】本研究では、腰痛症と MetS およびその構成要素の集積との関連について、男女別に検討を行った。

【方法】平成 25 年度に一般財団法人全日本労働福祉協会が実施した健康診断を受診した 40～64 歳の者を対象とした。健康診断受診時の問診票において、腰痛症について治療中と回答した者を腰痛症ありと定義した。MetS の定義には日本内科学会 2005 年の基準を用いた。また、MetS の構成要素 (腹部肥満、高血圧、糖代謝異常、脂質異常) に基づき、「要素なし」、「腹部肥満のみ」、「腹部肥満+1 要素」、「腹部肥満+2 要素以上」の 4 群に分類した。ロジスティック回帰分析を用いて、腰痛症に対するオッズ比 (OR) ・95%信頼区間 (95%CI) を算出した。

【結果】対象から「食後 12 時間未満の者」・「データに不備のある者」を除外した 45,192 名 (男性 30,695 名、女性 14,497 名) を解析対象とした。MetS の腰痛症に対する OR は、男性で 1.20 (95%CI : 0.98-1.45)、女性で 2.27 (1.37-3.63) であった。また、MetS の構成要素の集積数により、男性では、「要素なし」に比べて、「腹部肥満のみ」の OR は 1.36 (1.04-1.78)、「腹部肥満+1 要素」は 1.27 (1.04-1.56)、「腹部肥満+2 要素以上」は 1.32 (1.07-1.62) であった。女性では、「腹部肥満のみ」の OR は 1.65 (0.92-2.98)、「腹部肥満+1 要素」は 1.79 (1.14-2.79)、「腹部肥満+2 要素以上」は 2.38 (1.45-3.89) であった。男女共に、年齢・飲酒・喫煙・運動習慣を調整後も同様の結果が得られた。

【結論】女性において、MetS と腰痛症には有意な関連が認められた。また、男性では腰痛症に対して腹部肥満の影響が認められ、女性では MetS における構成要素の集積の影響が認められた。腰痛症と MetS および MetS の構成要素の集積との関連は、性別によって異なる可能性が示唆された。